

科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)  
第6回年次総会  
(2009年10月4日～6日、京都)

発表文(仮訳)

1. STSフォーラム(NPO 法人、本部・東京都千代田区、理事長 尾身幸次)第6回年次総会は2009年10月4日から6日にかけて、85の国・地域・国際機関から800名を超える科学者、政策立案者、ビジネスマン、オピニオン・リーダーが一堂に会して開催され、以下の点が合意された。
2. 米国、中国及びインドを含むすべての国が参加するポスト京都議定書の新しい枠組を確立することが必要であることを、設立以来、当フォーラムでは主張してきた。このメッセージが12月にコペンハーゲンで開催される COP15の議論に反映され、温室効果ガス削減のための実効的な、すべての国が参加する国際的な枠組の確立が合意されることを希望する。
3. 発展途上国の成長と発展に貢献するため、先進国から発展途上国への資金援助に加え、科学技術力と人的資源の強化に向けた発展途上国支援を一層充実することが必要である。日本をはじめ各国が発展途上国に対する科学技術外交に取り組んでいることを歓迎する。
4. 国家予算の歳出を引き締めざるを得ない深刻な経済危機の中ではあるが、科学技術への投資を維持し、引き続き経済の回復と成長の原動力である科学技術を振興するべきである。
5. エネルギー効率の急速な向上及び改善とクリーンエネルギー開発が不可欠である。特に、二酸化炭素排出量削減に向けて原子力は極めて重要であり、核物質の保障措置、放射性廃棄物の管理を含むセーフガード、安全性及び安全保障に関する厳格な条件のもと、原子力利用を増大すべきである。次世代に向けた研究を進める一方で、既存技術に基づく原子力発電施設の生産能力の向上を図らなければならない。また将来にとって核融合開発も不可欠である。
6. 核拡散の危険が増大していることは人類の将来にとって極めて重大な問題であり、この脅威に取り組み、核不拡散の断固とした措置をとることが重要である。
7. 代替エネルギーに関しては、すべての輸送手段が依然として化石燃料に依存していることから、食料供給量を削減することなく二酸化炭素排出量を抑制するエネルギー活用媒体としての電気自動車や燃料電池車を早期に開発することが重要である。
8. 衛生教育の強化、的を絞った研究、より実効的なワクチンの開発や薬の供給により、新型インフルエンザ(H1N1)を含む感染症を克服するため、企業・世界保健機構(WHO)・国家間の協力を促進する国際的な枠組が必要である。とりわけ発展途上国での医療サービス能力は強化されなければならない。
9. 人口増加や気候変動、そして医療サービスの向上と利用の増大は社会全体の費用負担を増加させるであろう。ゲノム研究及び人工多能性幹細胞に代表される再生医療に基づく、新しい医療提供の枠組は、これからも十分に探求されなければならない。予防医療の進歩度を高めることも急務である。

10. 世界人口の増大、豊かな食生活、バイオ燃料の需要増加、気候変動、自然環境の悪化によって引き起こされる深刻な食糧危機に対応するには、農業研究とその拡大、環境に適応可能な農作物、農業システムにより効率的な食料の分配を支援すべきである。更に、厳格な安全基準のもと、遺伝子組換作物の使用も促進すべきである。
11. 安全な水の安定供給は、現在緊急に取り組むべき国際的な課題である。科学技術は、海水の淡水化、水の再利用、水の浄化に重要な役割を果たしている。この分野での研究開発をさらに推進すべきである。
12. 温室効果ガスの排出による地球温暖化の抑制(mitigation)が必要不可欠である一方で、人間の苦しみを最小限にするための適応策(adaptation)は部分的、地域的かつ同時平行的に進められるべきであり、とりわけ水に関しては重要である。水の管理は地域独自の取り組みである。地域的なより良い監視データは、地域的な取り組みのためのモデルとなる。我々は地球全体を考え、地区ごとにアクセスし、地域的取組を進めなければならない。
13. これまでに行われてきた地域ごとの気候アセスメントのための分析モデルや監視システムは改善されるべきである。そのためには宇宙、大気、地上、海洋における監視能力の世界的な改善が要求されるであろう。
14. 情報通信技術の更なる発展は我々の生活を豊かにし、経済成長を促進するために不可欠である。個人情報の安全確保・プライバシーの保護・利用に関する関心を満足させつつ、クラウドコンピューティングのような最先端の情報通信技術を上手に利用すべきである。可動式ロボット工学テクノロジーと情報技術の融合が、我々の生活に更なる快適さをもたらすことも議論された。
15. 世界的に統合された知的財産権制度を確立する国際協力をさらに促進すべきである。長期的な取り組みの第一歩として、特許申請の基準と一般的な公開期間の導入の調整が必要である。知的財産権の尊重と基盤技術の標準化は、科学技術によってもたらされた知識の普及と利用に不可欠であり、世界経済の健全な発展のために知的財産権の侵害防止のためにさらに努力することが必要である。
16. 大学は、社会経済の発展と、市民の責任力の強化への貢献に重要な役割を果たしている。また、産学官の連携は、科学技術の進歩に大きな貢献をもたらしている。あらゆるレベルにおける理数教育は科学リテラシーの涵養と情報社会における民主主義にとって重要である。
17. メディアは科学技術の光と影について公平かつ客観的に報道することが重要である。このため、メディアと科学者との対話を活性化させることが非常に重要である。
18. STS フォーラムは単なる国際会議ではなく、経済、政治、メディアなど様々な分野の世界のリーダーが一同に起こす運動であり、フォーラム参加者の支援と協力によりこの運動が世界に広がることが期待される。自然と調和した人類のより良い未来の建設に貢献するため再会することを約束した。
19. STSフォーラム第7回年次総会は、2010年10月3日(日)から5日(火)まで京都において開催される。

お問合せ先: NPO 法人 STS フォーラム東京本部  
事務局長: 芹澤 ゆう / 広報担当: アラニヤ・ルディービーヌ  
Tel.03 3519-3351 / Fax 03 3519-3352  
[press@stsforum.org](mailto:press@stsforum.org) / [www.stsforum.org](http://www.stsforum.org)